

「若手研究者支援 1 次募集」国際学会発表	
Development of the positive sold-out beliefs scale for consumers: toward sustainable production and food waste reduction in food retailers	
氏名 西田 依小里	所属 人間文化創成科学研究科 博士後期課程 ライフサイエンス専攻 食品栄養科学領域
渡航期間 (実際の出発日～ 帰国日)	2026 年 7 月 24 日 ～2026 年 7 月 30 日
活動期間 (学会開催期間、 または実質的な現 地調査の期間)	2026 年 7 月 25 日 ～2026 年 7 月 28 日
学会・分科会名	NUTRITION 2026
場所	Gaylord National Resort & Convention Center, National Harbor, Maryland, Washington D.C., United States
発表者名、 発表形式	西田依小里, ポスター発表

内容報告

1. 学会・発表概要

NUTRITION 2026¹ は, American Society for Nutrition が主催する参加者 3000 人ほどの学会である。American Society for Nutrition は, 栄養学に関する 3 つのジャーナル(The Journal of Nutrition, The American Journal of Clinical Nutrition, Advances in Nutrition) を発行しており, 臨床栄養, 細胞および生化学, 公衆衛生, フードシステムなど, 幅広い分野から参加者が集まっていた。また, アメリカ以外にも, アジアやアフリカ, 南米など世界各国から, 参加者が集まっていた。報告者が昨年参加した SNEB (Society for Nutrition Education and Behavior) というアメリカの学会と比べて NUTRITION は規模が大きかった。

2026 年の学会プログラムでは, Ultra Processed Food(UPF), AI, Social Media, GLP-1 therapies, One Health, Food-Insecurity, Malnutrition, Gut Microbiotaなどをキーワードとして, 様々なセッションが開かれており, 世界各国の栄養学研究の兆候を知ることができた。報告者の研究分野である気候変動と食の関係のセッションにおいて, UPF と環境負荷の関係について研究した発表が新しい知見で印象に残った。その他にも, 開発途上国における栄養支援などの講演も多々あり, 視野・興味を広げる良い機会となった。

報告者は, 食品ロスの削減をテーマに, 食品事業者の売り切れを肯定的に捉える消費者の信念尺度の開発についてポスター発表を行った。持続可能な食の在り方に興味がある学生や, 企業の方が, 発表を聞きに来てくれ, その方たちと繋がりを持つことができた。直接的な共同研究などの話はなかったが, この繋がりを, 今後も大事にしていきたいと考える。

2. 今後の展望

本学会への参加は, 世界の栄養学の動向を直接学び, 海外の研究者と繋がりを作ることでできた大変貴重な機会であった。今後の展望として, まずは, 本学会で発表した研究内容の, 学術誌への論文掲載を目指していきたい。また, 本学会で新しく学んだ概念や視点 (One Health や UPF と環境負荷の関係など) が多々あった。これらの知見を, 今後の自身の研究に活かしていきたいとも考える。さらに, 本学会を通じて作られた繋がりが途切れぬよう, 定期的に連絡を取り続けていきたい。

参考文献

American Society for Nutrition, NUTRITION 2026, <https://nutrition.org/meeting/> (2026 年 8 月 19 日アクセス)

にしだいおり／お茶の水女子大学大学院 人間文化創成科学研究科 博士後期課程
ライフサイエンス専攻

- ・ 英文タイトル Development of the positive sold-out beliefs scale for consumers: toward sustainable production and food waste reduction in food retailers
- ・ 英文氏名 Iori Nishida
- ・ 英文発表者名 Iori Nishida, Tamaki Kuneda, Yui Kawasaki, Rie Akamatsu